

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議

このとおり報告します。

総 務 文 教 調 査 会

平成 27 年 4 月 28 日（火）

10 時 00 分～12 時 49 分

全員協議会室

（委 員） 佐々木委員長、岡本副委員長

岡野委員、小川委員、森谷委員、野藤委員、上野委員、江角委員

（議 長・委員外議員） 足立議員、柳楽議員、串崎議員、飛野議員、笹田議員、布施議員、
芦谷議員、田畑議員、西田議員、澁谷議員、牛尾昭議員

（総務文教委員会 所属管理職）

〔総 務 部〕 植田総務部長、前木総務部次長（総務課長）、坂田行財政改革推進課長、
河上安全安心推進課長

〔地域政策部〕 砂川地域政策部長、宇津地域政策部次長（政策企画課長）、河上まちづくり推進課長

〔財務部〕 埴財務部長、河野財務部次長（財政課長）、邊税務課長、稲垣徴収課長（ふるさと寄附
推進室長）

〔金城支所〕 吉永支所長

〔旭 支 所〕 田村支所長（防災自治課長、旭分室長）

〔弥栄支所〕 細川支所長

〔三隅支所〕 斎藤支所長、吉野防災自治課長（三隅分室長）

〔会 計 課〕 江木会計管理者（会計課長）

〔教育委員会〕 石本教育長、山本教育部長、横田教育部次長（教育総務課長）、滝本学力向上推進室長、
山根生涯学習課長、島田中央図書館長、長見青少年サポートセンター所長

〔消防本部〕 河上消防長、藤井消防本部次長（総務課長）、佐々木警防課長

（事務局） 篠原書記 （報道） 山陰中央新報社、中国新聞

議 題

1 報告事項

- (1) 平成 28 年度国県重点要望事項について
- (2) 「浜田市公共施設白書及び再配置計画（素案）」・「浜田市公共施設等総合管理計画」作成に係る議員報告会の開催について
- (3) 浜田市総合防災訓練の実施について
- (4) 浜田地区漁業地域減災計画の策定について
- (5) 浜田市総合振興計画審議会の開催について
- (6) 介護人材確保のためのシングルペアレント受入事業について
- (7) 浜田探索ツアーについて
- (8) 島根県立大学（浜田キャンパス）入学者の状況について
- (9) 平成 26 年度浜田市生活路線バス等の利用実績について
- (10) 敬老乗車券交付事業の経過報告について
- (11) 「（仮称）浜田市地域公共交通再編計画」策定方針について

- (12) 浜田市税条例等の一部を改正する条例の専決処分について
 - (13) 平成 27 年度固定資産税及び軽自動車税の当初賦課状況等について
 - (14) 平成 26 年分確定申告受付窓口の利用状況について（最終）
 - (15) ふるさと寄附特産品提供事業者との意見交換会について
 - (16) 平成 27 年度学力向上総合対策事業について
 - (17) 軽スポーツ推進事業（浜田市合併 10 周年記念ウォーキング大会）について
 - (18) 平成 28 年度全国高等学校総合体育大会の開催について
 - (19) 青少年サポートセンターの利用状況について
 - (20) 浜田市立図書館の臨時休館について
 - (21) 平成 26 年度浜田市立図書館利用実績について
 - (22) 旧井野小学校室谷分校の無償譲渡について
 - (23) 多数傷病者発生交通事故の概要について
 - (24) その他
- （配付）
- ・平成 27 年度学校職員名簿
 - ・平成 27 年度公民館職員名簿

2 その他

所管事務調査（消防行政視察）～近日中で日程調整

【以下詳細は会議録のとおり】

【会議録】

(開 議 10 時 00 分)

佐々木委員長

ただいまから総務文教調査会を開会する。ただいま出席委員は8名で定足数に達している。

会議に入る前に4月1日付で人事異動があったため、異動された職員に挨拶をお願いしたい。

(以下、異動職員挨拶)

では会議に入るが、今日のご承知のとおり全員協議会と特別委員会が予定されており、尚且つ今回は報告事項が非常に多いことを念頭に置きながら質疑をしていただきたい。執行部にも簡潔な答弁をお願いしたい。

1. 報告事項

(1) 平成28年度国県重点要望事項について

佐々木委員長

この件について。資料は要望事項全般にわたるが、この場では総務文教委員会関係のみの説明をお願いする。安全安心推進課長。

安全安心推進課長

(以下、資料をもとに説明)

佐々木委員長

ただいまの件について質疑がある方は。森谷委員。

森谷委員

1番の警察跡地について。面積、単価、総額、及び解体費用の説明を求める。

安全安心推進課長

実際には契約時の単価に下がると思うが、平成25年当時の数字で、敷地が5,739平米、金額が1億3,300万円ぐらい、これはうちと県との調整が入る。県とうちの鑑定は大きく違っていたので、市の鑑定で1億3,000万円ぐらい、県の鑑定で2億2,000万円ぐらいで当時いただいている。実際には時価の変更や解体後の色々があるので、飽くまで参考としてご理解いただきたい。

佐々木委員長

他に。

(「なし」という声あり)

佐々木委員長

無いようなので次へ移る。

(2) 「浜田市公共施設白書及び再配置計画(素案)」・「浜田市公共施設等総合管理計画」作成に係る議員報告会の開催について

佐々木委員長

この件について、行財政改革推進課長。

行財政改革推進課長

(以下、資料をもとに説明)

佐々木委員長

ただいまの件について質疑がある方は。

(「なし」という声あり)

佐々木委員長

無いようなので次へ移る。

(3) 浜田市総合防災訓練の実施について

(4) 浜田地区漁業地域減災計画の策定について

佐々木委員長	2件一括で、安全安心推進課長。
安全安心推進課長	(以下、資料をもとに説明)
佐々木委員長	ただいまの2件について質疑がある方は。
	(「なし」という声あり)
佐々木委員長	無いようなので次へ移る。

(5) 浜田市総合振興計画審議会の開催について

(6) 介護人材確保のためのシングルペアレント受入事業について

(7) 浜田探索ツアーについて

佐々木委員長	3件について一括で、政策企画課長。
政策企画課長	(以下、資料をもとに説明)
佐々木委員長	(5)について質疑は。
	(「なし」という声あり)
佐々木委員長	(6)について質疑は。岡野委員。
岡野委員	説明の中で、3名分の予算を予定しているとの話だったが、マスコミ等にもかなり注目されている。どの程度まで増やせる対応が可能か。
政策企画課長	3名の予算を確保と言ったのは、1年を通して浜田に来ていただいた場合の支援予算が3名分あるという意味。早くても8月から9月になろうかと思うので、予算的にはもう1名ないし2名の追加は可能と思う。ただ受入事業所の体制や車の提供の件もあるので、出来るだけ要望に応えたいが制約はあろうかと思う。
	これは飽くまでモデル事業で、大変な問合せ等があって期待が大きく、国も注目している。地方創生交付金対象事業としての申請も考えている。そうすると予算的にも多くの人数分が確保出来るだろう。このモデル事業が上手く行けば、交付金を使ってもっと多くの方に来ていただけるようにしたい。
佐々木委員長	他に。無いようなので(7)について。
	(「なし」という声あり)
佐々木委員長	無いようなので次へ移る。

(8) 島根県立大学(浜田キャンパス)入学者の状況について

(9) 平成26年度浜田市生活路線バス等の利用実績について

佐々木委員長	この2件について、まちづくり推進課長。
まちづくり推進課長	(以下、資料をもとに説明)
佐々木委員長	(8)について質疑がある方は。江角委員。
江角委員	今の前に短大時代があり、それすら無かった頃、浜田の定住の課題、人口減少の課題を考える場合に、医療と高等教育の充実によって定住に繋げていくべきだという意見があった。しかし地元高校生が県立大学に行かない事態が今回極端に表れてしまった。

併せて高校統合問題がある。よく言われるのが益田市・江津市と比べて卒業生は決して少なくないのに、地元高校からの進学が少ない。しかも今回は大分少ない。県も大学も市とは無関係だと言われればそうなのだが、大きく捉えて浜田に出来るだけ残ってもらうことを考えると、以前も中学高校大学が連携を取っていくべきではという定義もさせてもらい、努力もされているが、もっと真剣に考える時期が来ている気がする。人事異動直後ではあるが考えがもしあれば。

まちづくり推進課長

ご意見はありがたい。高校の進路指導部の先生と話をする中で色々考えさせられていた。少子化が進み、学生も資格取得思考が強い中、魅力ある県大をアピールしなければいけないと感じた。高校の先生が仰るには、その先に安定した就職先確保が重要であると。自分たちが県大を進めても、その先のビジョンが描いてやれないと胸を張って「県大に行きなさい」とは言い難いと言われた。「地元の大学に行ってくれたら良い」でストップするのではなく、その先の就職も見据えて浜田で何か出来ないかを考えるべきだと思う。

江角委員

もともとだと思う。高校再編の問題もあるので、浜田として危機感を持って、どこかでトータルに検討してもらいたい。

佐々木委員長

他に。森谷委員。

森谷委員

就職先の不安というのは分かるが、合格者 232 名中、島根県 55 を引くと 170 人は県外から就職先の不安も織り込み済みで合格している。また浜田に就職先が無くとも、それが県立大学に入学することとそんなに直接結びつかないと思う。

分析されているのは素晴らしいが、その場限りの縦割で、有機的繋がりが無いように思う。各協議等があると思うが、参加傍聴されるなり、そういうシステムを確立し合い、横の繋がりを考えながら。トータルでどうなっているかが分からないのは勿体ない。その辺を真剣に考えて情報共有と相談をしながら実効性を高めてもらいたい。

地域政策部長

横の連携の話が出た。シングルペアレントも大学の関係も、私ども地域政策部の管轄である。当然同じフロアで一緒に仕事をしているので連携しなければいけないし、他の部署との連携も含めてやっていこうと思う。

県立大学の所管だが、これまでは政策企画課が 3 月まで持っていたが事務分担の関係で今回はまちづくり推進課(以前の地域振興課)に移したので、新たな対応を課長にしてもらっている。議員の質問にあった、連携や他所の状況を把握するというのは、地域政策部の定住対策や人口減少問題を担当しているので、全ての方面で色んな情報収集して、色んな角度から対応するのは必要だと思っているので、今後更にそういう観点で仕事をしていきたい。

森谷委員	是非お願いしたい。消防でも広域、ごみも広域。同じ部の中で意思疎通が出来てないのは最悪だと思う。頑張ってもらいたい。
佐々木委員長	他に。野藤委員。
野藤委員	入学者数はゼロだが、志願者数は把握されているか。
まちづくり推進課長	私が聞いているのは浜田高校と智翠館だが、推薦は時期が速かったり色々あって応募が無かったと聞いている。一般入試は若干受験はされたそうだが、結局は行かれなかったと。
野藤委員	昔から浜田は都会思考が強い。市内高校に県大が認知されていないのではないかと。地元の学生がゼロなのは驚きだ。抜本的に何か考えないといけないのではないかと。要望しておく。
地域政策部長	仰った件は我々も非常に重く受け止めている。高校側も早速ヒアリングして、どういう理由があったのかを調査した。大学事務局とも話をした。両方がそれぞれの考えをお持ちなので、そこをマッチングしていくことと、市内の高校生に県大に親しんでいただく機会を作るべきだと考える。例えば市役所はインターンシップをやっているが、県大の食堂でご飯を食べたり、学生と話をする機会を設けて、なるべく身近な大学になるよう今後努力する。
野藤委員	久保田市長が新学部創設の話をしているが、このような現状ではその声も小さくなると思うのでよろしく。
佐々木委員長	他に。
	(「なし」という声あり)
佐々木委員長	無いようなので、(9)について。私から訊きたい件がある。議長を副委員長へ交代する。
	[議長交代]
岡本副委員長	佐々木委員長。
佐々木委員長	気になる点がある。乗合タクシーの利用実績が極端に減った路線がある。中でも美川線は約 53.8 パーセントと半分になった。先ほどの説明にて減った要因は曜日の変更等とあったようだが、他に大きな原因が恐らくあるのではないかと。把握はされているのか。
まちづくり推進課長	まだ踏み込んだ調査はしていないが、一つ言えるのは、委託業者も 26 年から変わって不馴れな点があったのかとも思う。美川も同じく月・水・金でやっているが、地域がこの曜日を良しとしていたのかも調査をしないと聞けない。ニーズに合っていたかを今後きちんと調査したい。
岡本副委員長	佐々木委員長。
佐々木委員長	経費を使うわけなので、より費用対効果のある取組みを是非お願いします。
岡本副委員長	では、委員長に交代する。
	[議長交代]
佐々木委員長	他に。

佐々木委員長 (「なし」という声あり)
無いようなので次へ移る。

(10) 敬老乗車券交付事業の経過報告について

(11) 「(仮称) 浜田市地域公共交通再編計画」策定方針について

佐々木委員長 この2件について、まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長 (以下、資料をもとに説明)

佐々木委員長 (10)について質疑がある方は。江角委員。

江角委員 次の項目とも関連しているが、この地区は島根の里づくりカルテの中で、先進地に絞って乗車券事業を入れたと。これは単独での活用ではなくこれを元に、どう交通体系に活かしていくか、次の計画づくりにどう反映させるかという位置づけで、分析なり活用法等を考えていただきたい。

委員長、次のも関連するので併せてでも良いか。

佐々木委員長 はい。

江角委員 それと、仮称が取れた今度の計画だが、平成23年だったかこの前の計画の名称は「基本計画」だったように思う。今回「再編計画」になったということは大掛かりに浜田市全体の交通体系を見直すという踏み出し方なのかと思う。意味合いはどうなのか。

それと、国で交通政策基本法が出来た。国もそれを受けて計画を作っていくと聞いている。国の計画づくりと地方自治体の計画づくりの兼ね合い、国からこうあるべきといった指導があるか、あるいはこういったものに支援策があるといったアナウンス等々が、今度の計画には反映されるのか。有無も含めて伺いたい。

まちづくり推進課長 敬老乗車券の分析については、今後は自己負担額が1,500円くらいでもという所もあるし、使っておられる方は75歳以上が多いことも視野に入れて、また、本当に緊急性の高い所だけで良いのか等も併せて、地域的なものも分析してまいりたい。交通弱者の皆さんに良かったと思っていただけるような事業にしていきたい。またご意見があったらよろしく願います。

次に「再編」という言葉についてだが、3年間進めてきて今年度も色々なアンケートを取っているところだが、今の計画に3年で到達出来るものではない。交通空白地帯を減らすことは難しく、減らせないなら何をしたら良いのか。今の計画を元にそういった点をより良く、出来れば浜田の交通体系はこうだという絵を描いて、それに到達出来るように再編していきたい。

国の件は私もまだ勉強不足で全部飲みこんではいないが、基本法について国県との連携も取っているので、国県の施策や補助金等は、再編計画に盛り込める部分は盛り込んでいきたいと思う。

江角委員 前回の計画で私が非常に評価したのが、交通空白地域の考え方を明確にされて、出来るだけ解消していこうということを打ち出

佐々木委員長	された件だ。自家用車を使っている所まで空白地域にしてしまっ て、どこも全てということにはならないと思う。しっかり調査を されて、本当に解消しなければならない空白部分の基本線を明確 にさせていただき、1つでも2つでも解消に繋がる計画にして欲し い。
佐々木委員長	他に。 (「なし」という声あり)
佐々木委員長	では(11)について。 (「なし」という声あり)
佐々木委員長	無いようなので、ここで休憩する。再開を 11 時 15 分とする。

〔 11 時 04 分 休憩 〕

〔 11 時 15 分 再開 〕

(12) 浜田市税条例等の一部を改正する条例の専決処分について

(13) 平成 27 年度固定資産税及び軽自動車税の当初賦課状況等について

(14) 平成 26 年分確定申告受付窓口の利用状況について (最終)

佐々木委員長 税務課長	会議を再開する。3 件一括で説明を、税務課長。 (以下、資料をもとに説明)
佐々木委員長	(12)について質疑がある方は。 (「なし」という声あり)
佐々木委員長	(13)について質疑がある方は。 (「なし」という声あり)
佐々木委員長	(14)について質疑がある方は。 (「なし」という声あり)
佐々木委員長	無いようなので次へ移る。

(15) ふるさと寄附特産品提供事業者との意見交換会について

佐々木委員長	この件について、ふるさと寄附推進室長。
ふるさと寄附推進室長	(以下、資料をもとに説明)
佐々木委員長	ただいまの件について質疑がある方は。 (「なし」という声あり)
佐々木委員長	無いようなので次へ移る。

(16) 平成 27 年度学力向上総合対策事業について

佐々木委員長	この件について、学力向上推進室長。
学力向上推進室長	(以下、資料をもとに説明)
佐々木委員長	ただいまの件について質疑がある方は。岡野委員。
岡野委員	家庭学習の充実の(1)、メディア対応の適正化で 10 万円の予算 が付いており、教員が理解するための研修会を実施するとのこと だが、メディア対応の適正化について教員理解はもちろん必要だ

が、実際に家庭学習の中で子ども達にどう指導していくかが一番重要である。昨今は LINE を使った事件もある。実際の対応について教員の研修も必要だが、家庭においてどのように指導していくかの具体案があれば聞きたい。

学力向上推進室長

もちろん教員研修は行う。メディア対応は各学校現場でも喫緊の課題として強く認識されている。現在の中学校区単位で色々な小中一貫教育に取り組んでいるが、その中の一つの柱として、具体的な危険性や回避方法等の研修および啓発をされているし、また、家庭学習の実際の指導については各中学校区または学校単位で家庭学習の手引きを作成して見直しをしたり等、具体的な家庭学習の仕方を指導している。

また、小中連携して学校や PTA の研修会等で保護者への啓発をしているが、更に続けていきたい。

佐々木委員長

他に。小川委員。

小川委員

学力向上に向けての具体的な施策が細かく列記されて非常に期待が出来る。実際にこういった事業を通して子ども達の学力が向上したのか、検証なり効果を分析するのは難しいと思う。例えば豊かな人間性等はなかなか数値化出来ない。

21 日に行われた全力学力テストの結果等も判断材料の一つになるのだろうが、数値ばかりを気にして一喜一憂したり、学習指導内容が変わるのも良くない。聞けば文部科学省の採点を待たずに各学校で独自の採点をして対応するという案も出されているようだが、あまりその辺が強調され過ぎると歪が出るのではと懸念する。学力向上施策の判断材料として全力学力テスト正答率が占めるウェイトはどれくらいなのか。

学力向上推進室長

仰るとおり学力調査の結果のみによって学力を判断するのは無理があると思う。その割合についてはすぐには思いつかないが、学力調査結果と正答率と併せて、生活に関するアンケート調査が行われている。例えば生活習慣、あるいはメディアの接触等、そのアンケート結果を元にして課題を把握し、対応を検討することを大いに重視したい。

究極的には、先生方が毎時間の授業なり学校教育稼働なりで一生懸命子ども達と関わるのが一番だと思っている。その観点で我々も指導していきたい。

佐々木委員長

他に。森谷委員。

森谷委員

体育、音楽、図工といった科目もあるが、ここで言う「学力」とはどういうことを示しているのか。

学力向上推進室長

学力を向上させるというのは、学力調査結果のみではなく、子ども達が将来大人になっていく社会は非常に変化が激しい。そういう社会を生き抜くためには、基本的基礎的な学習内容をしっかり身につけること、また、課題に対する思考力、判断力、表現力

	を付けること。更には大人になっても主体的に学んでいく意欲を起こさせること、それらが学力向上だと思っている。従って点数だけではなく、日々の授業の中で以上のことを重視したい。
森谷委員	結論は何か。質問の答えにならない。私の質問を理解しているか。体育、音楽、図工も学力のうちに入っているのかという質問なのだが。
学力向上推進室長	もちろん入っていると思う。
森谷委員	浜田市のテストの平均の良し悪しに興味は無い。石本さんが2回目の教育長になるときに発言された。
	全体より個々で伸びること、100メートルを20秒で走っていた人が17秒になる、元々11秒で走れる人はそれはそれで良い。頑張れば向上出来る、その経験が人生に役立つという潜在意識のようなものを植え付けるんだと思っている。
学力向上推進室長	その部分がこれでは見えない。言えるなら言って欲しいし、言えないなら精進して欲しい。
	そこまで私も言えないが、もちろん全ての教科に渡って、頑張っただけの達成感を味わえるような指導を、先生方をお願いしたいと思う。
森谷委員	私は良い成績も最低の成績も経験したから分かるが、最低の時は何も面白くない。0点からたまたま10点に上がった時、先生に褒めてもらったのがすごく嬉しかったのを覚えている。
学力向上推進室長	点数や記録を認めてあげるプロセスが大切だと思う。その辺を
佐々木委員長	考えるよう頑張ってもらいたい。
	仰るとおり。是非そういう所を大事にしていきたい。
	他に。
	(「なし」という声あり)
佐々木委員長	無いようなので次へ移る。

(17) 軽スポーツ推進事業（浜田市合併10周年記念ウォーキング大会）について

(18) 平成28年度全国高等学校総合体育大会の開催について

佐々木委員長	2件一括で、生涯学習課長。
生涯学習課長	(以下、資料をもとに説明)
佐々木委員長	(17)について質疑がある方は。上野委員。
上野委員	大変良いことだと思うが、5月9日から11回、7回参加された方に賞品を贈呈するとのことだが、周知の方法は。
生涯学習課長	周知についてはホームページ、浜田市広報、公民館や各事業所等へのポスター・チラシ配布、報道機関へのPRによって周知を図りたい。
上野委員	旭でも高齢者クラブの方々がウォーキング等をされるので、出来るだけ多くの方に届く宣伝をして欲しい。
佐々木委員長	他に。

佐々木委員長 岡本副委員長	<p style="text-align: center;">(「なし」という声あり)</p> <p>(18)について質疑がある方は。岡本副委員長。 競技の上の方の団体として、04総体に関わったところから若干思うところがある。</p> <p>5月下旬に実行委員会を設立して色んなことを進めるそうだが、過去に高校総体を運営された際の反省材料があったはず。私の記憶では、宿舎で手すりが落ちて怪我人が出たとか、おもてなしが非常に不味いという言われ方や、市民へのPR不足等があった。</p> <p>高校総体で浜田に来られる未来の若者が、浜田をどう捉えてくれるか。リピーターの関係も当然あると思われる。全市あげておもてなししていただくように、反省を踏まえてやっていただきたい。その辺の決意があればお聞きしたい。</p>
生涯学習課長 佐々木委員長	<p>仰るとおり、前回の反省点を充分踏まえて対応していきたい。他に。</p>
佐々木委員長	<p style="text-align: center;">(「なし」という声あり)</p> <p>無いようなので次へ移る。</p>

(19) 青少年サポートセンターの利用状況について

佐々木委員長 青サポセンター所長 佐々木委員長 小川委員	<p>この件について、青少年サポートセンター所長。 (以下、資料をもとに説明)</p> <p>ただいまの件について質疑がある方は。小川委員。 25年度と26年度の利用状況比較について表に書かれているが、実際センターへ相談に来られるのは全体の中でも一部分だと思う。相談パターンとして、例えば本人が直接だとか、あるいは家族からの相談、あるいは地区民生委員、学校の先生、相談の形がそれぞれあると思うが、そういった分析等はなされているか。</p>
青サポセンター所長	<p>今資料は手元に無いが、保護者、本人、学校、民生委員、色々な状況から相談を受けており把握もしているが、集計はしていない。</p>
小川委員	<p>青少年が抱える悩みを全体から包んでいくことが大切。例えばこういう悩みにはこういうケアで成果があったとかの情報共有、青サポ内だけでなく市民全体で包んでいけるような市民感覚が必要ではないか。中身を何らかの報告書にして出される考えはあるのか。</p>
青サポセンター所長	<p>件数等をご報告するが、全部を市民に報告するのは……年度によって多少もあるし、また色々検討していきたい。センターで行っている取組みについては、広報はまだで周知したり、子どもニュース、青サポ通信等で報告している。また、ケースについて学校等関係機関と連携して個別検討している。今後も努力していきたい。</p>
佐々木委員長	<p>他に。</p>

佐々木委員長 (「なし」という声あり)
昼をまたいだが、このまま続けるか。
(「はい」という声あり)
執行部の皆はどうか。
(「はい」という声あり)

(20) 浜田市立図書館の臨時休館について

(21) 平成 26 年度浜田市立図書館利用実績について

佐々木委員長 2 件一括で、中央図書館長。
中央図書館長 (以下、資料をもとに説明)
佐々木委員長 (20)について質疑がある方は。
(「なし」という声あり)
佐々木委員長 (21)について質疑がある方は。
(「なし」という声あり)
佐々木委員長 無いようなので次へ移る。

(22) 旧井野小学校室谷分校の無償譲渡について

佐々木委員長 この件について、教育総務課長。
教育総務課長 (以下、資料をもとに説明)
佐々木委員長 ただいまの件は、事前審査になってはいけないので質疑は受け
ないことにするが、よろしいか。
(「はい」という声あり)
佐々木委員長 では次へ移る。

(23) 多数傷病者発生交通事故の概要について

佐々木委員長 この件について、消防本部警防課長。
警防課長 (以下、資料をもとに説明)
佐々木委員長 ただいまの件について質疑がある方は。森谷委員。
森谷委員 1 ページ下に「合計車両 11 台、人員 30 名」と書いてあるが、
私が別の資料で見たのと数字が違う気がする。前は違う数字で発
表されていたのか。
警防課長 最初は事故後の庁議資料として、同じような表を作成した。事
故後に活動報告書を作るのだが、その時はそれが間に合わなかつ
たため、集まった状況を記載した。その後出動報告が纏まったと
いところで改めて数字を確認し、今回の資料とした。
森谷委員 事故発生当時、私は東京におりテレビの報道を見てびっくりし
た。私が聞いたところ、119 番してからヘリに電話するまで大体
4 分程度。この時は 35 分から 49 分かかっている。徹底というレ
ベルかなと思うが、この辺はどう考えれば良いのか。
警防課長 ドクヘリの要請については、キーワードによる即時要請と現場
救急隊判断による現場要請の形がある。今回の通報は一報の時点

で、バスが絡む多数傷病者の発生で「バス」がキーワードに入っているため、即時要請が可能な運用ルールになっている。これに基づいて119番受信後に通信司令課員が運行管理室に電話連絡し要請する手順になっているが、今回の事案においては第一報の内容が「バスとトラックの追突事故」であったため、通信司令員の判断で先着隊からの現場要請という形になった。途中で出動隊からヘリ要請や、第二報で警察から「正面衝突」という情報が入っていたが、この時、連絡する通信司令員が無線交信や、更に消防の増隊出動指令に対応中であり、結果的に現場要請の形になった。

今まで救急救助事案においてドクヘリ要請をキーワードにより行っているが、特に問題は無かったので、通信司令員が連絡を単純に忘れていたとは考えていない。ただ、今回は本当にそれで良かったのか、我々も再度考えないといけない。通信司令体制のあり方、要請連絡のあり方については検証・検討と訓練を行い、徹底していきたい。

森谷委員

ヘリ要請まで、現場に着いてからでも15分経っている。119番通報のテープ起こしを見たが、「心肺停止しているぞ」「怪我人がようけおるぞ」という言葉も入っていたので、当然そこでヘリ要請があっても良かったのではないか。こういう事例は年に何度もあり、キーワード要請の平均は4分。それが今回、素人判断とはいえ心肺停止だの多数の怪我人だの、キーワードがいくつもあったのに、現場到着後15分以上経っている、49分といえば2台目のヘリ要請の時間だ。現場に着いて20分後とは、どう考えれば良いのか教えてもらいたい。

警防課長

現場の指揮隊からも、現着後に司令課にヘリ要請を入れているが、とにかく通信指令室が多数の連絡や無線統制によって混乱していたために、時間経過してしまったのが今回の現実。

森谷委員

消防からの説明は、30分40分ある中で連絡出来なかったことを「混乱していた」と。30分も40分もずっと混乱しっぱなしだったという話が、理由になると考えておられること自体が問題だと思っている。

この辺はきっちり詰めないといけない。何故なら、今後は高速道路が徐々に西に延びる。今回のような事故が同時に発生した場合、手が足らないのが予想される。今までのやり方を変えて検討すべきだと思う。

25日に行われた県の会議で、ドクヘリをあまり呼び過ぎないように基準を作っている。作った翌日にこの事故が発生した。4月1日にオープンにされて15日から履行されている。これも基準の見直しの可能性があるとのことで、県もドクターも、今回は事故が2件続いたので重要視している。縦割ではなく皆の意見を聞かないといけない。県、医者、消防、総務文教、市役所。専門家だ

消防長

けでなく色々な人が参加出来るようにして、より良いもの、後世に貢献出来るように全員でやっていくべきだと思うが、どうお考えか。

今回の高速道路事故について、消防の体制強化へのご意見だと思う。ありがたい。この多数傷病者発生事故1件を取ると、その時点では一つの消防の災害対応能力を越えた事故であり、こういう事故に対してはドクヘリ、浜田医療センター、近隣の消防等、他の資源も有効に活用しながら活動することが一つの考えだ。今から西部に高速道路が伸びていく状況を鑑みた時、こういった災害がこれからも多く発生するようなことが考えられる。消防力の強化ということで、出動体制についても見直す必要がある。今年度、消防防災体制強化に向けて具体的に話を詰めている。

それから、ドクヘリ要請基準が4月1日で変わったと言われた。これは県の運行調整委員会というのがあり、今まではキーワード方式等で災害を過大評価しても良いと、その時に要請したこと自体は不問にし、キャンセルしても責任を問わないとしていたが、それでも重複が多くなり、実際に必要な災害に対応出来ない状況が出てきたので、見直しをするための案として出てきたもので、委員ご指摘のとおり4月1日付けで改正され、4月15日から適用となっている。

森谷委員

私も新しい基準を読みこんだが、前は19個あったが1個プラスされているだけ。今回の事故は高エネルギー事故として該当し、確実にヘリを呼んでも良い事故に入る。また、隊員が判断すれば他の事は無関係に呼んで良いという項目もある。二重の意味でも今回は呼ぶことが出来たので、少しは安心している。

考え方として、オーバーに選択する考え方がある。オーバートリアージと言われている。それと緊急の際に特別医療チームを作る、DMATというのがある。それは立派だと思うが、竹本という隊員さんが、DMATを指令に要請しているのに、指令から医療センターへはDMAT要請がなされていなかった。何らかの事情でどこかへ行ってしまった。これはオーバートリアージの反対ではないか、勿体ないことだと思う。私は竹本隊員を評価したいが、それが伝わらなかったシステムについて検証する必要がある。

それから最終的には、良くなるのが目的なので犯人探しをする気持ちは全く無いが、浜田消防でのMC連絡協議会や、県の検討会、年に3、4回ある。そういうものに議員も是非参加させていただき、情報の共有化を図り、より良いものを作る最善の努力をせねばいけないと思うが、どうお考えか。

警防課長

DMATについては災害現場の急性期における機動性を持った医療チームという位置づけである。浜田医療センターもDMATを編成している。

先ほど仰った、現場支援隊員から通信司令室に DMAT という言葉で要請したのに……ということだが、一方、現場の指揮隊においては、傷病者の中で重症者 2 名を救急車で搬送する、またはドクヘリで搬送するという方針は決まっていた。その他の方も市内あるいは市外の病院へ搬送する方針も決まっており、残された 1 名の、外観上社会死に近い状況だとのことだが、この方が車に挟まれており、救助活動が続いていたので、この方の生死を判別するために、現場に医師要請があり、医療の立場から判定していただきたいと思っていたが、DMAT というチームでの医療派遣は、現場では既に必要無くなっていたと判断していた。

一方、通信司令室はそれらの動きを考えてもおり判断していったと思うが、DMAT という言葉が医師要請という言葉に代わったとのことだが、通信司令室でもその無線の状況から、医師要請ということで医療センターに尋ねたら、医療センターはもう既に手一杯で医師派遣は出来ないと返事があったため、そのように対応したことになる。

森谷委員

医療センターはそうだろう。元々昼間に診察している先生がチームを組むのだから。ちょうどその時に広島県立病院から、DMAT という言葉かは知らないが、1 人目のお医者さんは着いていて 2 人目のお医者さんを派遣しましょうかと、グッドタイミングで要請があったと聞いている。それは本当か。

消防長

広島県立病院から、医師・看護師の余力があるので現場に派遣しましょうかと連絡をいただいた。すぐ通信指令課から現場指揮本部に必要な有無を確認したら、もう活動方針が決定していたので不要という返事を貰ったので、現場の状況を説明してお断りした。

なお、この派遣についてはドクヘリはこちらに来ていたので、広島市消防局のヘリを使ってということだった。現在、まだそういう協定は出来ていないが、そういうことを言うだけで大変ありがたかった。県の医療政策課とも、向こうからこういう申し出があったという話をした。

県としては、まず県の体制も活用してもらってということもあったが、緊急でやむを得ない場合はそういうことも出来るか、しっかり検討していきたい。

森谷委員

細かい話はこれで終わるが、竹本隊員に DMAT の必要性があると言われたのは、広島からドクヘリで飛んでこられたドクターが言われたと解釈している。このドクターが言った情報を、消防隊長が取り消している。そして広島県大から、もう 1 人医者が呼べると言われたのを断っている。

軽傷者が重傷者になるかどうかは普通分からないのだから、ここでもオーバーリアージで判断しないといけないと、私が勉

強した限りでは思っている。だから折角要請があったのならありがたく来てもらう。途中で帰って貰っても良かったと思う。

警防課長

あまりに細かい話になるのでここは止めるが、こういうことも併せて、色んな会議にお互い出席し合って、より良いものを作ることに對して合意をいただけるか。

外部の方を必要な会議の時にはお招きすることはあると思う。今回、地区の MC (メディカルコントロール) 協議会にて、定例症例検討会を開催する。その中での検討題材に今回の事故を提出して、検討することになっている。これらの検討については医者と消防機関とで行うもの、そしてその中には個人情報や医療情報も多数含まれているため、関係者以外の方にはこれまでも参加いただいている。

また、その他の協議等において外部の方にも入っていただき、ご意見をいただく方が良いと判断した会を設ける際には、是非お知らせ申し上げたい。

森谷委員

総務文教委員会は外部という位置づけとはちょっと違うと思う。消防も総括している委員会なので、まちで歩いているお姉さんお兄さんが参加するのはわけが違うし、意識も高い。是非もう一回検討していただきたい。そうすべきだと思う。私は委員長にもその働きかけをお願いする。

私が怪我をする立場であったら、そういう会議に色んな人に入ってもらいたい。

それから個人情報というのは、こちらも秘密会議等を経験しているのだから、漏らさないようにと言ってもらえばそれで良いと私は思う。

それから、数日前に再度ドクヘリが飛んできたようだが、それは教訓が活かされて問題は無かったのか。

消防長

先週金曜日だった。三隅町岡見にて車両が海中に転落した事案があった。これについては車内からすぐ要救助者を収容し、通常どおりの要請をしたドクヘリにて医療センターに収容した。スムーズに対応出来た。このたびの教訓も・・・。

大変申し訳ないが、その時間については……8 時 59 分に 119 番で入電し、9 時 3 分に広島ドクヘリを要請した。教訓が活きた災害だったと思う。

森谷委員

了解した。そういう形で、出来れば結果がどうなっても最善を尽くせるのが良い。資産・資源をまんべんなく利用しないとけない。

誰とは言わないが、例えば島根のドクヘリも呼ばれたが、私が聞いた時に「呼んだかどうか記憶に無い」とか、そういう幹部もいらっしゃる、誰とは言わないが。

忘れていないわけなので、私はわざと言わなかったのではない

かと思っているのだが、その辺のクリーンさを再度考え直していただきたい。

佐々木委員長 森谷委員から、メディカルコントロール等、有識者の会合に総務文教委員会としても参加して、発言するかは別として、という意見があった。ここで皆さんに諮るのは非常に厳しいと思うが、以前、現消防長からも総務文教委員会で消防署に是非視察に来てくださいと申し出があった。近日中にそういった機会を設け、その場で消防署の関係者の方と我々との協議させてもらう中で、この件については決めさせていただくという流れはどうだろうか。

(「はい」という声あり)

佐々木委員長 その場で協議させていただくということなので、皆さんもそれまでに出来るだけ、この件について知識を付けていただければと思う。

佐々木委員長 他にこの件について何か。

(「なし」という声あり)

佐々木委員長 無いようなので次へ移る。

(24) その他

- ・平成 27 年度学校職員名簿
- ・平成 27 年度公民館職員名簿

佐々木委員長 その他についてだが、委員に 2 件の配布物がある。確認をしておいてもらいたい。

その他、執行部から報告事項は。

(「ありません」という声あり)

2. その他

佐々木委員長 では、議題 2 のその他について。議員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

佐々木委員長 執行部の皆さんから何か。

(「ありません」という声あり)

佐々木委員長 では、以上で総務文教調査会を終了する。

(閉 議 12 時 49 分)

浜田市議会調査会規程第 6 条の規定により、ここに調査会記録を作成する。

総務文教委員長 佐々木 豊治 ㊞